

キツツキサロン活動報告

今回のテーマ「子どもの言葉の使い方」

キツキが
いろいろ
あったよ！



1月9日(木)に行われたキツツキサロンには、6名の保護者の方が参加してくださいました。子どもの言葉について、家庭内での親子の会話での気になったことや家庭ごとの心配なことなど、いろいろな話をすることができましたので、内容の一部をピックアップしてご紹介します！

言葉づかいに関して家庭での困りポイントは？

メディアや友人関係に影響を受け、 良くない言葉を使う

年齢や性別によって差はあるものの、学校の友達やYoutube、ゲームなどに影響を受けて、家庭内でも子どもたちの言葉づかいが極端なことが。例えば兄弟同士でも簡単に「死ね」と口をついて出たり、意味をよく分からぬまま人が使っている言葉を使ってみたりするなどの声が聞かれました。

参加者の声

親としては、親や目上の人には、友達の延長線での会話の仕方ではなく、敬う気持ちも大切にして言葉を使い分けをしてほしい、という気持ちがあるよね



家庭で工夫できるポイントはある？

親も言葉づかいを見直したり、適切な言葉の意味や使い方を子どもに伝えたい

親が「その言葉づかいはやめなさい」と叱って終わりではなく、「どう言い換えたら相手によりつたわりやすいか？」や、「そう言いたくなってしまう理由や経緯」などを親が子どもから聞く余裕があるととても良いと思う。親は子ども間の「通訳」の役割があるという認識が大切では。

また、普段身近な大人が使っている「口癖や言いぐさ」を子どもが真似したり無意識にコピーして相手に言葉がけしていることがあるので、親がそれに気づいた時は、自分たちでも指摘し合ったり言葉や態度を改善する勇気や努力も大切。

いつの間にか自分の言い方を子どもが真似して使っていた、っていう保護者もいたよ



サロンでの気づきポイント

親も感情的に言葉を使ってしまうこともある！大人も子どもと一緒に根気強く言葉づかいを直す努力が必要！

親だって、失敗もすれば感情的にもなるし、不適切な言葉を使ってしまうこともある。それに気づいて気をつけようとしても、習慣や癖はそう簡単に直せるものではない。子どもであればなおさら難しいのでは。根気強く工夫ポイントを子どもに伝え続けることが大事。

そして、親もよくない言葉を使ってしまった時や、自分の意に添わないという理由で子どもの言葉づかいを叱ったり怒ったりしてしまった時は、「さっきはこういう理由で言ってしまった。ごめんなさい」と子どもにきちんと説明して謝るなど、親が尊敬してもらえる対象でいることも大切。

参加者の声

言葉はコミュニケーションツール。人の間にヒビが入らないようにするためのものなので、時と場合を教えるのは親の役目かな



「だめ」と言うだけじゃなく代替案も心に留めておくのは大切



保護者語録

その言葉を「使ってはだめ」と叱るだけじゃなくて適切な言葉選びを親も一緒にしてあげることが大切

言葉選びに失敗しても次に上手にできたら褒めポイントになるよね

言葉の砕け具合がまだ(子どもは)適切に使い分けられない

大人でも言われたことにその瞬間に納得して、「変えていこう！」と思って、なかなか継続はできないことなので子へも根気強く伝え必要がある

暴言などを吐く子に「どういう気持ちでそれを言ったの？」と聞くことも大切

家庭で使う言葉は子どもに反映されていると思う

お母さんの言葉や話し方を真似ている気がする。「お母さんテイストが入っている」と感じる時がある

不本意な言葉は流せばいいと言われても、難しい。親や先生は子ども同士の通訳になる存在だと思う

サロンを主催したメンバーより

子どもと会話するとき、少しだけでも子どもの話す言葉に気を付けてみてくださいね

次のキツツキサロンも開催計画中！お楽しみに！